



発行所
関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者
事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日
平成27年1月31日

Vol.61



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 関 誌

もくじ

• •

●「新春を迎えて」玉川義光理事長	2
●賑やかに新年賀詞交歓会	3
●組合員・賛助会員懇談会を開催	4
●技能実習・商品講習会実施	5
●受検対策実技講習を実施	6
●大阪で登録配管基幹技能者講習	7
●新入組合員	7
●理事会 議事要旨	7
●3団体懇談会を開催	8
●4団体協議会を開催	9
●日管連全国青年部会が合同部会	10
●配管技能コンテストに参画	11

新春を迎えて

良質、高度な技能を売る集団組織へ



理事長 玉川 義光

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。平素は、組合活動へのご協力に対し心より御礼申し上げますと共に、本年も更なるご支援のほどお願い申し上げます。

当組合は、平成4年6月に会員数107社、賛助会員82社でスタート。20数年の間には、バブル崩壊、世界経済の大不況、大地震、大型台風による大災害、そして原発人災にもみまわれ、失われた20年で組合員は30社に減りました。

しかし、当組合の創立の目的は「技能を売る集団」「技能工の育成」であります。配管技術研修会、2級配管技能士講習会、1級配管技能士認定訓練講座と積み重ね、育てた1級配管技能士は500人以上になります。

平成17年より配管基幹技能者講習会に講師派遣、全国の登録配管基幹技能者は2650名、組合は特別加入の労災保険並びに労働保険事務組合として「一人親方保険」加入者1000人以上、働く技能工仲間がこの業界で大きな力になって活躍されています。

今、建設業界では、団塊の世代の一斉退職で優秀な人材確保や技能の伝承に大きな影響を与え、既に人手不足、技能工不足は避けて通れない見通しであります。国土交通省と厚生労働省は重い腰を上げ、連携いろいろな対策に乗り出しています。

「当面の建設人材不足について」とその対策については、「社会保険未加入対策の推進」「適切な賃金水準の確保」など今業界には追い風が吹いています。平成25年4月に設計労務単価は15.1%アップ、26年2月には更に7.1%アップしました。しかし、現状は、現場で働く技能工に賃金水準の確保が行き届いていません。

これに対応し、全国設備業三団体は「特別決議・宣言」を行い、関西設備業三団体は26年4月より「特別決議の実行」に注力しています。

若年入職者推進のためには、高校生インターンシップや高等職業技術専門校への協力、実技指導、1級配管技能士認定訓練講座、1000人を目標に「配管技能コンテスト」への協力、企業研修会への協力、登録配管基幹技能者全国目標3000人の早期達成、配管マイスターの増員、配管技能者のレベルランク認定など、人材育成を最大の目標に活動いたします。

現場で汗する技能工が、名譽と誇りを持って、この業界に一生を託すことができるよう、組合はその活動を通じて実現できる範囲の夢と希望を叶えるために頑張ります。

この一年が、業界で働く技能工やその家族が安心して生活でき、平和であることを祈願いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

今年は「未年」——ひつじにまつわる格言に「岐路亡羊（きろぼうよう）」というのがあります。学問の道が細分化しすぎて真理を得がたいこと。転じて、いくつもの方針があるため、どれを選ぶべきか迷ってしまうことのたとえです。

また、諺ではよく知られた「羊頭狗肉（ようとうくにく）」があります。昔中国で、ひつじ（上等品）の頭を看板にして実際には犬の肉（安物）を売っていたということから、見かけと中身が一致しないことをいいます。もうひとつ、「羊質虎皮（ようしつこひ）」というのもあります。外見は立派（虎の皮）でも、それに実質が伴っていない（中身はひつじ）ことをいいます。どちらも俗にいう（看板に偽りあり）。

「ぶれることなく信ずる道をまっしぐら」

「看板に偽りなし」の心意気で歩んでいきたい

ものです。

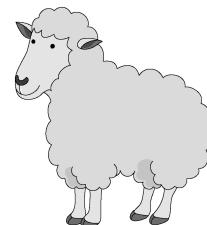
ひつじは「狼とひつじ」のように弱いもの

の代名詞になっていますが、貨幣が普及する

前の大陸では貴重な財産として富の象徴であ

ったといいます。経済が潤い、穏やかなひつじのごとく平和で災害のない年になることを

「未年」の決意



賑やかに新年賀詞交歓会

—「未年」スタート—

組合の新年賀詞交歓会は1月22日午後5時30分から大阪市都島区の太閤園で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして「未年」がスタートしました。新年賀詞交歓会には、ゼネコンや関連団体、教育機関、組合顧問などからの来賓、組合員、賛助会員など合わせて63人が出席し、庄司真之副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った玉川義光理事長は「平成4年『技能を売る集団

西配管工事業協同組



年頭挨拶を述べる玉川理事長

組織の確立』をめざし当組合の前身が107名で発足したが、その後、急激な経済変動を経て現在組合員は30名に減少した。組織は小さくなつたが、めざすところはがら変わらず、技能の向上に努めてきた。約500人の1級配管技能士を世に送り出し、関連団体とともに育てた登録配管基幹技能者は全国で約2650人となり、当面の目標3000人の実現も目前となってきた。今後も教育機関と連携し、若年技能者の育成・確保に全力で取り組む」と決意を示しました。さらに玉川理事長は、社会保険未加入者の加入促進、技能者の適正な



庄司副理事長の司会で進行



大江校長が来賓代表挨拶

賃金確保に注力し、「技能者が名誉と誇りを持って仕事に当たる業界にしたい」と述べました。

来賓紹介に続き、大阪府立北大阪高等職業技術専門校の大江晃校長が来賓を代表して挨拶。大江校長は、同校卒業生・在校生が当組合員の企業をはじめ、建設・建設設備業界へ入社あるいは入社内定



閉会の辞を述べる山田副理事長

していることに感謝の言葉を述べるとともに、「昨年、組合青年部会の方々に当校を視察していただいた。今後もこうした取り組みを通して技術・技能への理解を深めていただきながら人材育成に力を注ぐ」と述べました。大阪府中小企業団体中央会・連携支援部の岸本貴志連携促進課長の発声で乾杯したあと賑やかに交歓しました。途中、来賓の方々が挨拶に立ち、教育関係者は設備分野の教育の取り組みや方針などを紹介し、また、賛助会員も1社ずつ壇上で自社PRを展開しました。今回、来賓としてゼネコンから初めて出席した竹中工務店大阪本店（3人）からは江藤忠人設備部部長が「設備工事があってこそ建設業界である。今後も相互に協力して業界の発展に寄与したい」と挨拶しました。

最後に、山田誠香副理事長が「今年は未年。ひつじの角は何物をも打ち破るとされ、また、ひつじは幸せと平和をもたらすともいわれる。ひつじにあやかり、心身を改めて進もう」と閉会の辞を述べ、同氏の音頭で威勢よく一本締めを行って躍進を誓いました。

組合員・賛助会員懇談会を開催

材料は値上げ基調

受注価格持ち直し気配

第5回「組合員・賛助会員合同懇談会」を12月4日に当組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催し、材料価格動向、市場情勢などについて情報・意見交換しました。

懇談会には組合員、賛助会員合わせて28名が出席。玉川義光理事長が「組合員と賛助会員は線路の2本のレールのように相互に協力しながら歩んでいきたい。知恵を出し合って市場の変化に対応していこう」と挨拶し、庄司真之副理事長の司会で進められました。

確保に方針転換するところが増えたり、今後も製品価格はじりじりと上がるとみられる」などの意見が多く出ました。

市場情勢については、「現場の数が増えている」とする見方が大勢を占めました。それを背景に受注価格についても「採算が合わず断っても、また見積もり要請がくる」、「厳しい指値なので断ると、以前は他所に回っていたとみられるが、最近は再度『いくらだったらできる?』などの声がかか

界に「突貫工事」的な無理な要請になっていることが明らかになり、中には「以前だったら、10人の職人を送り込めばよかった現場でも、工期短縮の強い要請で30人を確保しなければならず、人件費の高騰が収益を大きく圧迫している」、「突発的な人件費のコスト増をいくら見込んで見積もりをしていいのか、見当がつかない」といった意見も多く出ました。また、賛助会員からは「組合員さんが十分採算に合う受注をしてくれなけ



組合員
(正面)



賛助会員
(正面)

材料価格動向については、「長期間値上げされなかった鉄管継手は、このところ各メーカーが相次いで価格引き上げを発表している」、「アジアからの輸入が多いステンレス継手も円安の進行で値段が上がりつつある」などの状況が報告され、副資材や運送費の高騰からその他の製品も値上げ傾向にあることが示されました。

今後についても「金属製品、樹脂製品とも将来的に国内市場の大きな拡大が見込めないとあって、各メーカーはシェア競争から利益

る」、「公共物件は、かつては赤字受注があったが、このところ、そぞこの利潤で安定してきた」、「近年、無茶な見積もりはなくなり、指値も『これでやってくれるか』というニュアンスで交渉してくれる」などの事例が報告され、収益環境がいくぶん改善しつつある現状がうかがえました。

一方、建築物件の増加に伴い、建設技能者不足・工期遅れが配管業界に大きなしづ寄せとなっている現状が報告されました。土木・建築工事の工期遅れが設備工事業

れば材料に方にカネが回ってこないので、努力してほしい」などの要望も出されました。

最後に、庄司副理事長が「関西も関東に比べれば物件が少ないとはいえ、現場はこれからもまだまだ増えていこう。配管を伸ばしていくらの商売なので、関西に根を張って賛助会員さんの協力を得ながら進んでいきたい」と述べ、山田誠香副理事長の閉会の言葉で会議を終えました。このあと、近くの料理店で懇親忘年会を催して和やかに情報交換しました。

手動ねじ切り実習と商品講習会

アンカー施工／PE管融着工具



組合は、12月6日に大阪府東大阪市のレッキス工業本社工場で1級配管技能士検定に向けた「手動ねじ切り実習」と商品講習を実施しました。

講習会には30名が出席し、今年度の技能士検定に備えて12月中旬開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ね、手動ねじ切りを実習しました。また、日本ヒルティによるアンカー講習とレッキス工業による配水用ポリエチレン管（PE管）融着工具の講習が行われました。

この講習会は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより実施されており、今回で15回を数えます。この日も土曜休業日になかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤し研修をサポートしていただきました。

冒頭、玉川義光理事長はレッキス側に感謝の言葉を述べるととも



慣れない手動ねじ切りに挑む

に、「配管工事の仕事は将来増えることが見込まれる。現在、職人不足が顕著になっているが、それを解消するためにも皆さんの今後の活躍に期待する。1級技能士からさらに進んで登録配管基幹技能者をめざしてほしい」と激励しました。

講習では、技能検定に必須のパイプの手動ねじ切りについて、レッキスの担当者からレクチャーを受けながら実習しました。また、同工場に隣接する「レッキスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学びました。

このあと、日本ヒルティの担当



レッキスミュージアム見学

者によるアンカー施工講習を開催。打ち込み方式、締め付け方式のアンカー施工について、実地の模擬施工を交えて施工のコツと注意点などを学びました。

レッキス側からは、近年増えつつあるPE管融着工具と新製品「自動停止装置付パイプマシン（F80AⅢGX）」が紹介されました。この新製品は、ねじが切りあがると自動的に主軸回転が止まるもので、低電圧警告、過負荷防止機能も搭載されています。

このあと、レッキスの担当者から普及拡大中の「転造ねじ」についての紹介とともに、加工実演が行われました。



実地のアンカー講習



レッキスによる講習



転造ねじ加工の実演

技能士受検対策実技講習

1級技能士模擬検定に挑む

平成26年度の1級配管技能検定（27年2月）へ向け、組合では12月20日（土）と21日（日）の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

講習はレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。15名の1級配管技能士の受検予定者が鋼管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など受検本番さながらの作業試験に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師による「材料取り・ペーパーテスト」の講習（座学）が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施されました。

午後の実技講習では、まず玉川義光理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川理事長は、組合が独



材料取りの座学講習

自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツなどを交えて作業手順を説明しました。課題作品製作に先立ち、鋼管と塩ビ管を真っ直ぐ切断するため、その要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提出させて指導しました。

このあと、池成信夫指導員と宮本泰仁指導員が手動ねじ切りと溶接の模範実技を行いました。



実技の作業要項の説明



ねじ切りの模範実技



溶接の模範実技

引き続き、実技講習に移り、指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は切断、接合・接着、配管組立などで作業試験の課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、あの受講者は前日の反省を交えて実技講習を受けました。

午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品の製作に懸命に取り組んで完成させ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



指導員からアドバイスを受けながら課題作品づくりに取り組む

大阪で登録配管基幹技能者講習

平成26年度前期の登録配管基幹技能者講習が10月に大阪と沖縄で実施され、近畿・沖縄両地区合わせて139名が受講し、新たに137名の登録配管基幹技能者が誕生し



ました。

近畿地区的講習は10月23～25日の3日間、大阪市中央区のエル・おおさかで行われ、最終日には当組合の玉川義光理事長、庄司真之副理事長、中野広造理事、小阪武司理事が「OJTの進め方や実践」、「ケーススタディ」などの



制定されたロゴマーク

理事会 議事要旨 [26年9月]

- ①近畿空調工事業協同組合の組合名称変更の報告
- 平成26年6月23日付で組合名称を「近畿ダクト工事業協同組合」と改称
- ②大空衛主催の第16回4団体協議会出席報告
- ③大空衛主催の第6回配管技能コンテスト結果報告
- 当組合からは一般の部に8名の方々を推薦
- ④日管連平成26年度第5回全国青年部会開催に伴う、関西青年部会からの出席者報告
- ⑤日管連平成26年度（第9回）定期総会・理事会・出席報告
- ⑥定款変更認可に伴う、副理事長1名減少のための役員変更

- ⑦組合員からの脱退申し出の件
- ⑧技術研修会開催日程と要領作成

[26年10月]

- ①平成26年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
- ②日管連臨時理事会出席報告
- ③平成26年度1級配管技能検定受検対策実技講習開催要領作成
- ④第5回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領作成
- ⑤その他（平成27年3月・高等学校卒業予定者合同求人説明会の案内）

[26年11月]

- ①平成26年度上半期分（4月～9月）組合会計収入支出状況報告
- ②第36回3団体懇談会開催に伴う保温協会からの提出議題に対する当組合としての発言者決定と当組合からの提案事項の検討
- ③平成27年度認定職業訓練配管科

科目で講師を務めました。近畿地区会場では85名が合格しました。

また、登録配管基幹技能者講習委員会において、「登録配管基幹技能者ロゴマーク」が決定、ヘルメットステッカーが作成され、講習修了証書と併せて配布されることとなりました。

新入組合員(平成27年1月加入)

株羚友設備(りょうゆうせつび)

代表者 山内 敬三氏

〒577-0064

東大阪市川俣本町6番2号

Tel.06-6746-5957

Fax.06-6777-5977

1級技能士コース実施計画作成
④平成27年新年賀詞交歓会開催要領作成

⑤その他（国土交通省からの「建設業取引適正化推進月間」ポスターの配布・掲示について）（西日本高速道路株式会社からの路上落下物事故防止協力依頼について）（組合青年部会の正副部会長に理事会出席依頼について）

[26年12月]

- ①第36回3団体懇談会出席報告
- ②大空衛主催の第17回4団体協議会出席報告
- ③日管連理事会出席報告
- ④新規組合員の加入申込みの件
- ⑤第17回管工機材・設備総合展OSAKA2015後援名義の使用の件
- ⑥第5回組合員・賛助会員合同懇談会運営順序の打ち合わせ

第36回「3団体懇談会」開催

社保問題、人手問題で意見交換

当組合と近畿ダクト工事業協同組合（理事長増田岳史氏）、近畿保温保冷工業協会（会長細見義征氏）で構成する「3団体懇談会」は11月18日、大阪市北区のグラント・アーモTAMAHIMEで第36回会合を開き、保険未加入問題の進捗状況、人手不足と受注価格の推移などについて意見・情報交換しました。

会合には当組合からオブザーバー（大阪の左官団体代表・一貫坂彰氏）を含み8名、ダクト団体から6名、保温保冷団体から5名の計19名が出席しました。今回は、左官業界からの出席を得て同業界の情報も報告されました。



会議は当番幹事の保温保冷団体の司会で進行され、最初に社会保険未加入対策について情報交換しました。社保問題では、保険料を受注価格に組み入れることをめざし、平成25年暮れの「3団体全国会議」（東京）での決議・宣言を踏まえ、26年2月の関西「3団体懇談会」代表者会合を経て、「サブコン各社へのお願い」と題する文書を3団体の連名で4月にサブコン各社に送付しましたが、その後の推移について情報・意見を交わしました。

保温保冷業界からは「4月1日に標準見積書の活用を一斉に要望したが、標準見積書を基準に値段



を決める環境にはほど遠く、実情はほとんど進展していないといつてよい。人手不足から受注価格は少し上がっているが、これからどう進むのか見当がつかない」という報告が出されました。ダクト団体からも「現状はこう着状態。見積書に書くということはほぼ定着しつつあるが、発注者側の意識は『以前から見積もりに保険料は含んでいる』など旧態依然、配管業界からも保温保冷、ダクト業界と同様の状況であることが示されたほか、「下請からは『保険に加入するゆとりがない。一人親方にしてほしい』との要望が増えている」との報告も出されました。全体の意見を総合すると、標準見積書に法定福利費を外枠で明示し、それをもとに受注価格を交渉している状況とはいえない現状がうかがわれました。

左官業界からは「平成25年秋に標準見積書を完成、即発注者サイドに使用を要望した。その後、26年5月に会員にアンケートを実施したところ、別枠で明示しているところもあるが、その別枠分を貰えているとはいえない状況。躯体工事、設備工事の各業界が足並みを揃えて発注者サイドに声を大にしてアピールしていかなければ標

準見積書の実効ある活用は望めない」との意見が出されました。

人手問題と受注価格の現状については、どの業界からも人手不足が深刻化しつつある現状が示されました。とくに、冷媒配管工事では極端に不足していることが報告されました。ダクト工事では「各社・各現場で繁忙に差があり、関係各社と人手の融通など協力してやっているが、工事量が増えつつあるので今後はできるかどうかわからない」との意見も出ました。また、各業界とも「5年、10年先にはまだまだ職人が減る。今対策を立てなければ業界として立ち行かなくなる」といった見方が大勢を占めました。

若年労働力の確保については、「工業系高校にさまざまな方法でアタックして効果を実感している」、「ハローワークを活用して少し確保できた」という報告がある一方で、「高校を5校回ったが1人も来なかった」、「受注価格を上げて技能者の賃金を上げなければ、せっかく建設職種を希望する人材も比較的待遇のいい他の建設職種に行ってしまう」などの意見もあって、人手市場の混乱ぶりと、人材確保の難しさが浮き彫りになりました。

4団体協議会を開催

「社保加入促進の現状」話し合う

当組合、近畿ダクト工事業協同組合（理事長増田岳史氏）、近畿保温保冷工業協会（会長細見義征氏）と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体、会長太田隆氏）で構成する4団体協議会の第16回会合が7月28日に、第17回会合が11月25日に大空衛事務局会議室で開かれ、「社会保険加入促進対策」などについて意見を交わしました。

16回会合では社会保険問題で、法定福利費を別枠明示した『標準見積書』の活用状況について「サブコン側は標準見積書を採用しているが、法定福利費の具体的率は下請まかせで、その標準見積書で価格交渉を行っているため、実際に法定福利費分が上乗せされているかの検証はできない」、「サブコンはゼネコンに対して標準見積書を提出しているが、下請に対して標準見積書の様式を指定して見積もりを出させることはしていない。下請によって、法定福利費を明記したもの、明記していないものどちらも出ているので、しばらく様子見をしている」、「標準見積書を使っているのはサブコンの一

部ではないか。法定福利費に関係なく工事費が決まっているのが実態である」などが報告され、標準見積書の扱いはサブコンによってかなりの温度差があることがわかりました。

技能者の不足問題では、「ゼネコンでは型枠工、鉄筋工、内装工が極端に不足している模様。そのため工程に遅れが生じ、しわ寄せが設備工事にきている」などの見方が示されました。

このほか、「若手を入れるには賃金アップが大事。しかし、いずれまた仕事が減ることを考えると採用拡大に踏み切れない」とする意見もあって、人材確保はきわめて難しい局面にあることがうかがえました。

17回会合では、社会保険問題で国交省の対応策について「見積標準書式と積算基準改定により、平成27年4月から法定福利費の明確化が進展する見通し」であることが報告されました。国交省では、法定福利費の明確化を図るため共



第17回会合

通積算基準を改定し現場管理費の一部として計上する法定福利費の内容を明示し、社会保険未加入対策の徹底につなげるとしています。

情報・意見交換の中では「見積書を提出し価格を決定した際、法定福利費を切られたのか、どこを切られたのかわからない。結局法定福利費が確保されたかどうかわからない。そこで、価格決定後、出される注文書に法定福利費を明示するよう要望したい」とする意見が出されました。

現場における技能者の不足問題については「大幅不足が現場の工程に大きな影響を及ぼし、とくに、設備工事は内装工（軽鉄下地）の現場施工に振り回されという状況が起きている」という現状が報告されました。技能者の賃金については「賃金は上昇しているとはいえないが、技能者の不足により、応援を求める職人の日当が上昇しているのに加え、常雇いの職人の休日出勤、残業が多くなって結果、人件費が増大している。いずれも工期のしわ寄せから生じている」という状況が示されました。



第16回会合

宮城で合同部会開催

組合の上部団体・日本配管工事業団体連合会傘下の各地区団体青年部会で組織する全国青年部会（部会長朝倉博昭氏＝関西団体）の第5回合同部会が10月24日に宮城県で開催されました。

今回は東北配管工事業協同組合青年部（福井正美部会長）の担当で開催されたもので、合同部会会議に先立ち、女川町観光協会による「語り部ガイドによる被災地視察」のツアーに参加し、東日本大震災の復興現状を見て回りました。このあと、ホテルで意見交換会を開催し、活発な交流を通じて青年部会活動の活性化への方策を模索しました。

▽ ▽

24日正午過ぎに各地から仙台空港の到着ロビーに集合した会員は、北海道、東北、関東、中部、中国、関西、九州の7団体からオブザーバーなども含め50名。1年振りの再会を喜び合ったあと、貸切バスで東日本大震災により甚大な被害を受けた女川町に向かいました。

宮城県の東端、太平洋に突き出した牡鹿半島の基部に位置する同



町は、日本有数の漁港「女川漁港」がある有名な港町です。水産業を基幹産業とし、銀鮭や牡蠣、ホタテなどの養殖が盛んで、中でも秋の味覚「太刀魚」の水揚げ量は全国でもトップクラスの業績を誇ります。

東日本大震災で受けた災害で廃棄物の推定量は44万4000tにのぼり、これは町内の通常廃棄量の約115年分に及ぶ膨大なものでした。また、同町は震源地にいちばん近い町であったことから大津波が襲い、震災前の人口約1万人のうち827人が亡くなられました。

同町観光協会では、被災地の視察などに訪れた団体のバスに同乗し、震災当時や復興の様子、今必要なことなどについて話をする「語り部ガイド」を行っています。一行はガイドの案内のもと被災エリアの現状をつぶさに視察す

るとともに、今も仮設住宅で暮らしている方々の施設を訪れました。今後の町づくりについて復興の現状と取り組みなどをパネルや模型、映像などで紹介する情報発信施設「復興町づくり情報交流館」では、復興に向けて何が重要なのかを学びました。

視察を終えた一行は、景勝地松島を一望できるホテル松島大観荘で旅装を解き、合同部会に臨みました。臨時役員会のあと、意見交換会を開催し、福井正美・東北青年部会長の大友啓氏の司会進行で活発な意見交換を繰り広げました。

各支部からの近況報告では、関西組合青年部会・朝倉部会長から、職人不足・仕事不足の情報を共有する場がなく、機会損失が発生している現状の打開策として、〈日管連・助け合いネット〉運営



被災地の復興状況を視察（復興現場のすぐそばには被災した建物がそのまま残る）





挨拶する朝倉部会長

を提案しました。これは、全国の会員が運営サイトを通じ、「応援を依頼したい会社」と「仕事を求める会社」の情報を共有し、ビジネスチャンスにつなげていく試みです。朝倉部会長は「業界環境改善に貢献できる」と訴えました。それに対して、「支払い方法はどうする」「物件名は掲載するのかしないのか」など具体的な質問が飛び交い、白熱した議論が展開されました。その結果、今後の課題として研究していくことを確認しました。

このほか、会員増員・組織基盤の拡充などさまざまに課題に対



懇親会で情報・意見交換

し、全国青年部会が協力し合いながら力を注いでいくこととした。

意見交換会終了後、懇親会を催し、朝倉・全国青年部会長が「東日本大震災のときは、テレビの映像でまさかこんなことがあるのかと目を疑った。今回、被災地を視察し想像を超えた被害状況に改めて震災の怖さを思い知った」と述

べるとともに、「今後も復興に向けて立ち上がろうとしている東北の皆さんを日本全国から応援していきたい」とエールを送りました。さらに、「われわれの業界は自然災害に左右される仕事。力を合わせ日管連という組織を通じて躍進していきたい」と述べました。このあと、賑やかに交歓しながら親睦を深めました。

大空衛主催 第6回配管コンテストに参画

8月23日に東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校（テクノセンター東大阪）で開催された大阪空気調和衛生工業協会(大空衛、会長太田隆氏)主催の第6回配管技能コンテストに当組合は選手を派

遣するなどで参画しました。

コンテストはこれまでと同じく現場の第一線で活躍する配管技能者を「一般の部」、建築設備関連学科を履修中の高校生を「高校の部」として実施されました。

今回は一般技能者23名、東住吉総合高校、布施工科高校、彦根工業高校から生徒18名の計41名が参加。一般の部では1級配管技能士検定レベルの課題作品製作（制限時間3時間）に、高校生は同3級レベルの課題作品製作（2時間30分）に挑戦しました。

一般の部では横谷剛司氏（株藤井設備）が優勝しました。準優勝は清水豊氏（東和管工）、3位は藤田薰氏（株藤尾設備工業所）でした。高校の部では、上林隼君（彦根工業高校3年）が優勝、西川喜芳君（布施工科高校3年）が準優勝、堀野依武君（布施工科高校2年）が3位となりました。



一般の部上位入賞者
（前列）

大阪府立 北大阪高等職業技術専門校 見学説明会

大阪府立北大阪技術専門校は、平成27年度4月入校者募集に向けての見学説明会を2月10日・23

日、3月11日に開きます。時間は午後2時30分～。予約は不要です。

同校は平成25年4月開校、先端産業拠点の津田サイエンスヒルズに立地し、新しい施設に整った設備の中「ものづくり」や建築分野の技術者を育成しています。

募集科目は「ものづくり基盤技

術科」「建築設計科」「住宅設備科」「インテリア木工科」です。

18歳以上なら未経験でも約1400時間の豊富な訓練（学科・実技）で専門職の技術が身につきます。府立なので月1万円程度の安価な授業料です。

お気軽に電話（072-808-2151）でお問い合わせください。

株式会社 アウス

スーパートラップ付目皿 ワンタッチ掃兼金具 (スーパー トラップ付き)

簡単に施工でき封水を確保
トラップ部が取り外し可能、メンテナンスも簡単

D-STD-PU 50・65・75・100mm

50mm 100mm

D-3CO-STD-PU 50・65・75・100mm

50mm

総発売元

イクイップメントのサポート商社

株式会社 昭栄

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町2-3-1
☎(06)6262-1241 FAX(06)6262-5947

本店営業部 〒577-0815 東大阪市金物町6-10
☎(06)6725-9311 FAX(06)6725-9333

東京☎(042)487-6811 北関東☎(048)458-1234
大阪☎(06)6531-9601 金沢☎(076)291-9011
中國☎(086)246-2611 姫路☎(079)284-4101
四国☎(087)864-7351 松江☎(0852)26-1124
福岡☎(092)928-5001 北九州☎(093)951-7021
千葉☎(043)258-3811 大分☎(097)555-9840
山梨☎(055)279-5711 鹿児島☎(0995)62-3301

印管継手 給水・給湯・冷温水に!! 2つのSUS管用継手登場!

ワンタッチ式
SUSDAKE(サスダケ) **新製品!**

拡管式メカ継手
ZLOK
(ゼットロック)

印管継手
管端防食管継手 PQWK
日立カップリング継手 オメガシリーズ
日立密閉型膨張タンクシリーズ
ウォーターハンマ防止器

日立金属株式会社 関西支店

〒541-0041
大阪市中央区北浜3-5-29(日生淀屋橋ビル)
TEL:06-6203-9704 FAX:06-6202-0730
<http://www.hitachi-metals.co.jp> HITACHI